



AYAweek2022

2022年2月23日開催

【AYA世代のがん、家族の想い】

## 開催報告書



## 【開催趣意】

AYA 世代とは、Adolescent and Young Adult(思春期・若年成人)の頭文字をとったもので主に、思春期(15 歳～)から 30 歳代までの世代を指しています。

2021 年 4 月、瀬古利彦さんのご子息、昴さんは 34 歳で旅立ちました。旅立つ一か月前に、昴さんは『がんマラソンのトップランナー』という本を自費出版しています。

本の中には自らの経験を包み隠さず記しており、「AYA 世代には、学業、仕事、恋愛、結婚などで、高齢になってからのがんとは違った特有の悩みがありますから。そんな、僕と同世代のみなさまに、この本が届いて、経験をシェアできたら嬉しいです」という昴さんの想いがこめられています。25 歳でホジキンリンパ腫とわかってから 9 年間の日々を、昴さんは『ジェットコースターのような日々』と表現していました。2020 年のニューイヤー駅伝で、トップの選手を後ろの選手が追いかけている映像を観て、「もしこれから僕と同じ状況になる人たちがたくさんいるとしたら、先例としてその人たちが生きて行くための手助けになるのか。」と涙が溢れたことが著書のタイトルの由来となっています。



『家族は第 2 の患者』とも言われます。昴さんの本のサブタイトルには『伴走 瀬古ファミリー』と記されています。今回は【家族】に焦点を当て、瀬古利彦さんより、昴さんと過ごした日々、そして今の想いをお話していただきます。その後、これまで 4,000 人以上のがん患者およびその家族と対話をしてきた、清水研医師からのお話と、おふたりの対話をお届けすることで、家族に視点をあて、ともに考える時間となることを目的として開催しました。

※このセミナーは樋口宗孝がん研究基金による助成を開催費用の一部に使用しました。



**【内容】**

- イベント名 : 一緒に知ろう とともに考えよう AYA 世代のがんのこと  
『家族』～AYA 世代のがん、家族の思い～
- 日程 : 2022 年 2 月 23 日(祝日)13 時から 15 時
- 開催方式: zoom ウェビナーを使用したオンライン開催
- 主催 : 認定 NPO 法人 希望の会
- 共催 : グリーンループ
- 参加費 : 無料
- 後援 : 厚生労働省・東京都・渋谷区・公益財団法人がん研究会有明病院  
一般社団法人全国がん患者団体連合会  
一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会  
AYAweek2022・一般社団法人ピーパック(難病団体)
- 協賛 : アステラス製薬株式会社・アフラック生命保険会社・オイシックス・ラ・大地  
武田薬品工業株式会社
- 助成金 : 樋口宗孝がん研究基金(運営資金の一部として使用)
- 運営支援: 一般社団法人ピーパック

開会あいさつ	13:00	開催趣旨 轟 浩美(認定NPO法人 希望の会理事長)
1, AYA世代のがん～家族の思い(仮)		
講演 50分	13:10 ～ 14:00	講師:瀬古 利彦 氏 (DeNA アスレチックスエリートアドバイザー)
2, がんところ(仮)		
講演 30分	14:00～ 14:20	講師 : 清水 研 氏 (がん研有明病院 腫瘍精神科部長)
3, 対話		
対話 30分	14:20～ 14:50	モデレーター:轟 浩美 瀬古利彦氏 清水研氏
おわりに	～15:00	轟 浩美

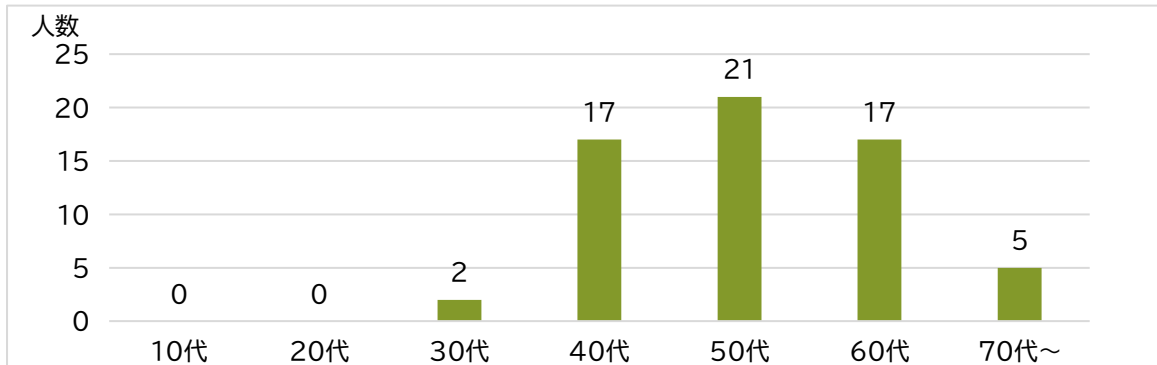
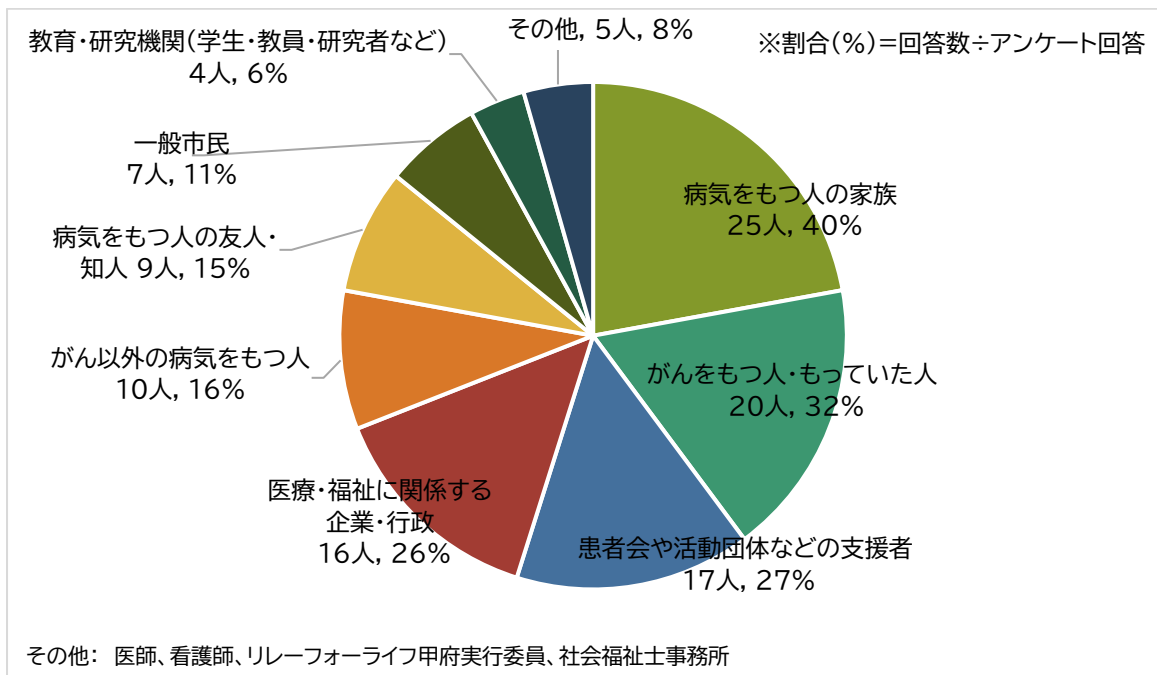
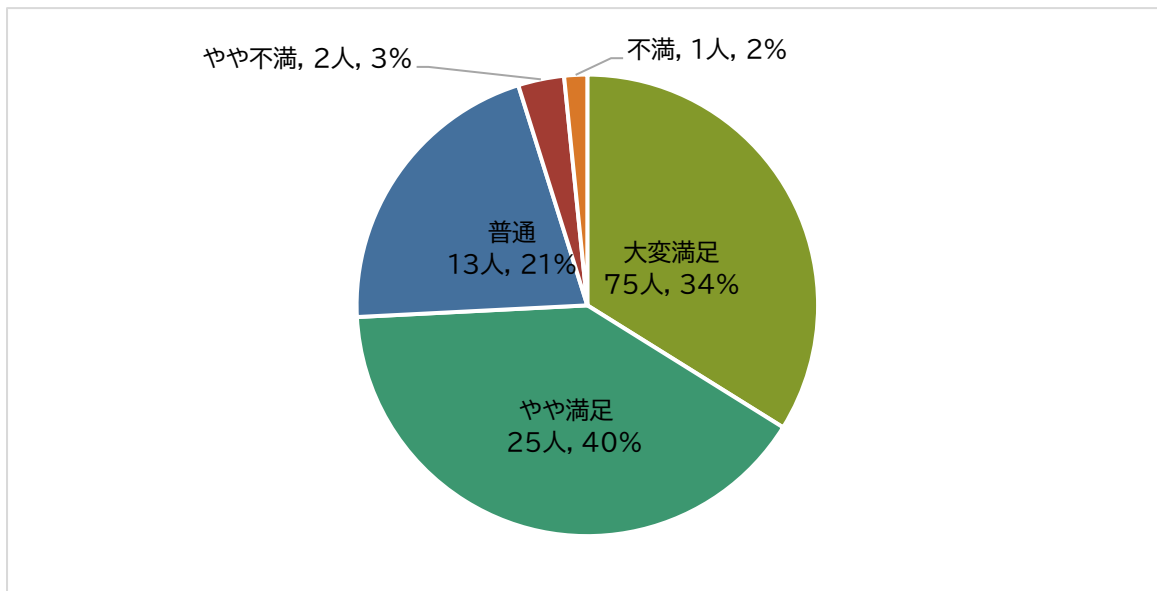
認定 NPO 法人希望の会 御中

2022年3月11日  
一般社団法人ピーペック

一緒に知ろう ともに考えよう  
AYA 世代のがんのこと『家族』  
～AYA 世代のがん、家族の想い～

参加者アンケート集計結果

開催日： 2022年2月23日(水)  
実施期間： 2月23日～3月9日  
設問数： 7問（自由記述については原文のまま掲載しています。）  
回答者： 62名  
頁数： 全14頁

**問1: 年齢を教えてください。**

**問2: お立場を教えてください。※複数回答**

**問3: 今回のイベントに参加していかがでしたか？**


問4:「AYA世代のがん」について考えるきっかけとなりましたか?気づきや気持ちの変化などありましたら教えてください。

- ・ 自分が癌の当事者になったら、自分に子供ができて癌になったら、と考えながらお話伺っていました。コミュニケーションをうまく取りながら、お互いの想いや希望などに配慮して、安心できる空間を作りたいと思いました。
- ・ 病と闘うこともを一人の人間として、親がどう覚悟をもって接するか
- ・ AYAに特化はしていなかったように思います
- ・ 病気とは違った、生きることへのお話のようでよかった
- ・ 家族ケアについて考えることができました AYA世代だから親も若い、パートナーも若い、子供も小さい。いろいろ社会的なことを考える世代の病気、とても大変だと思います
- ・ もう少し深い話を聞きたかったです
- ・ 患者本人だけでなく家族全員のケアが必要なことが良く解りました。
- ・ スポーツに対する想いが強すぎるお父さんの姿 昴君にはきっと伝わったのでは。いろんな立場の違いを感じました。
- ・ 自分(自己中心)から今迄見てきたこと、言ってきたことが多かったと思いました。これからは、相手、また、AYA世代からの見ていくことが一つのコミュニケーションになって互いに良い関係、健康になっていくものと思われました。
- ・ きっかけにはなりました。
- ・ AYA世代をなくすことの辛さ。
- ・ 本人と家族の気持ちを理解できました。悲しむ、涙を流す事、私もアドバイスが出来るような気持ちになれました。
- ・ 普通を取り戻すことがとても大変で、AYA世代は周囲に心配させないよう気遣ったり、自分の気持ちを抑えることもあると思います。AYA世代がん患者の方の苦しみや、乗り越える力、成長した姿を応援したいと強く感じました。
- ・ 親の立場からの声を聞く事で子供の世代であるAYA世代を知ることも大切だと思う
- ・ AYA世代の患者と家族とのかかわり方、患者本人がどのようにかかわってきたのかを教えていただきたく思いました。
- ・ 普段、がん相談支援員をしており、AYA世代の患者さんの相談を受けることが多々あります。しかし、当事者の気持ち、奥にある苦悩や苦痛に向き合うにはAYA世代の患者さん、ご家族さんは相談室の門をなかなか自ら開くことは少ないと感じております。そういった意味でも有名人ではなく、生の声が聴きたかった。
- ・ AYA世代のがんは、良くも悪くも当事者の声を聴こうという企画が多いなと思います。ご家族の立場から語られる気持ち、見聞きした本人の言葉や様子であったりというものから、AYA世代のがんを考える場も必要で、このような

機会をもっと増えてほしいと思いました。(難しいかもしれませんが、親子・きょうだいなどそれぞれの視座からの話が交わるような場もあったらいいですね)

- ・ 小児と AYA 世代のがんは、子供に先立たれるという点が共通するため区別して開催する意義はあるのか、とセミナー前は考えたが、轟さんの言葉により、近い境遇の方を対象に開催されることで対象となる視聴者の興味を惹き(参加いただけるきっかけがつかられ)、対象の方の気持ちに寄り添うことに繋がるのだと気づかされた。
- ・ AYA 世代、私も 20 代で父親のがんになった時大変でした。その時、このようなサポートがあれば、心強かったです。応援しています
- ・ AYA 世代のがんの会ということで、50 代の私は対象外ではないかと参加を少しちゅうちょしていましたが、思い切って参加させて頂いてよかったと思います。私のように参加したいと思っても対象外と思い込み、参加されなかった方もいらっしゃると思います。参加してみてわかった事です、AYA 世代真ん中ではなくても、AYA 世代の親、子供、祖母祖父など AYA 世代にかかわるすべての人に関係あるお話だと思いました。次回このような会を開催して頂くときは、より幅広い世代に関係あるお話としてお知らせ頂けると参加しやすいのではないかと思います
- ・ 若くしてがんになってしまった家族をどう支えていくか患者さんの数だけ方法がある、また家族だからこそなかなか難しいけれども気持ちを確かめ合うことが後悔しない秘訣であり大切なのだと感じました。
- ・ 身近なことだと気付きました。
- ・ AYA がんで亡くした親の気持ちに触れられた。闘病中のリアルな様子に触れられた。
- ・ がんを患う娘の親として、とても期待していた会でした。聞いて良かったです。
- ・ AYA 世代ならではの苦しみは本人にも家族にもあるのだなと思った。
- ・ 小児、学童、学生、社会人…どの世代にとってもこうした病にかかることは大きな痛みや悲しみ、さまざまな負担を強いられます。社会への声が届きにくい、自ら声を上げにくい、AYA 世代のために些細なことでも何かできることがあるのだろうか？もう一度自分の経験を省みる時間を与えてくれました。ありがとうございました。
- ・ 誰もが死を迎えるけれど…若い方の闘病、お看取りは、また違う思いがあるなあ…と感じてました。
- ・ AYA 世代のがんをテーマに話されたとはいえない内容だったので理解を深められなかった。
- ・ がん患者との接し方の参加になりました。
- ・ AYA 世代の人達が生きるのにもっと寛容な社会になってほしいと思います
- ・ AYA 世代の友人が、がんで他界しているので、友人を思い出しました。気持ちは、その頃から変わりなく、改めて AYA 世代を応援したいと感じました。
- ・ 自身が AYA 世代がんサバイバーなのですが、まだまだ AYA という言葉の認知度も低く啓発活動の必要性を実感しました。著名な方のように行きませんが、自分にもできる活動を続けたいと思いました。

- ・ AYA 世代のがんでは、親御さんが遺族になってしまう場合が多くご遺族の悲しみも大きいと改めて感じました。瀬古さんが我慢をせず泣く事で立ち直れたと言われていたのが印象的でした。また、闘病中マッサージを続けられたり、出来る事をする事で悔いが少なくなるというお話は参考になりました。自分も悔いのないよう接したいと思います。
- ・ AYA 世代で子供をお持ちの女性のがん患者、「私は死を考えない」子どもを育てなくちゃあ」と言われる方が私が接した方の中には多かったです。
- ・ 将来のある若者のガン罹患は本人、家族に早くから人生の不条理を突きつけ辛い体験を強いられる現実を知り 思いをめぐらしました。
- ・ AYA 世代のがんについて、さらに理解を深めることができました。
- ・ がん患者の家族、医療関係者として、周囲の関わり方を再認識しました
- ・ AYA もそうですが、年齢関係なくそれぞれ大変なことがあると思います。
- ・ 瀬古さんのお話の 8 割がオリンピック関連になってしまい、それはそれで興味深かったのですが、AYA 世代のがんを考える上ではもっと昴さんとのお話を伺いたかったのが正直な気持ちです。でも 25 歳の頃の体調不良で診断され 34 歳の若さで亡くなられたこと、充分考えるきっかけになりました。また、亡くなられる前にお父さんに電話で感謝や愛を伝えたのが最期の言葉となり瀬古さんの心に遺っているエピソードは、感情を伝えることをしない or 苦手な日本人にとっては珍しく伺っていて本当に嬉しくなりました。

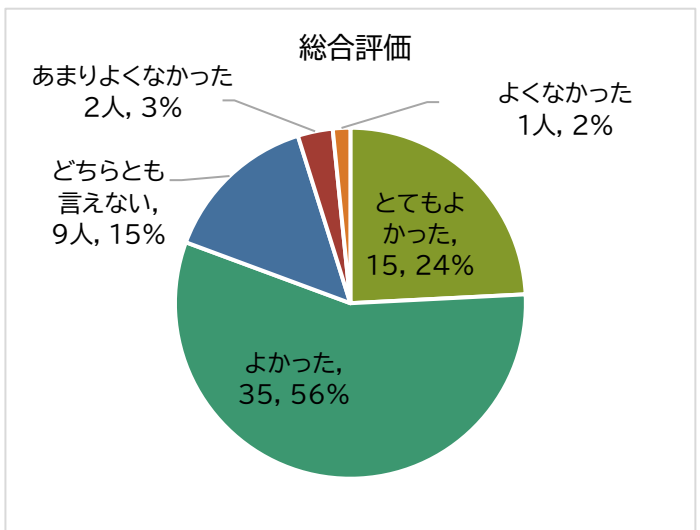
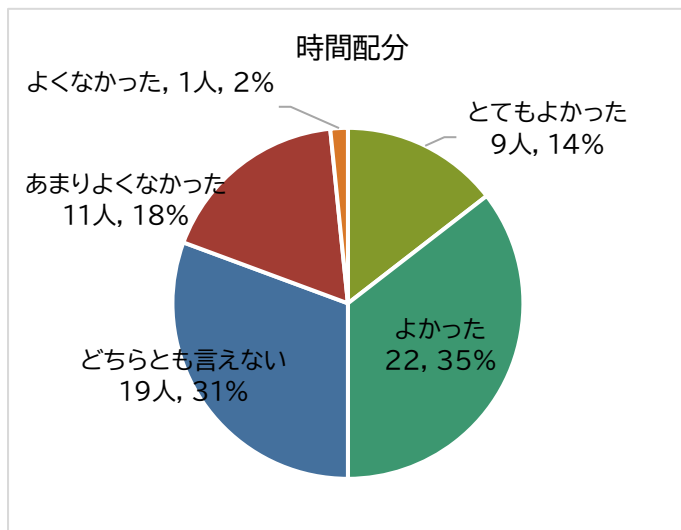
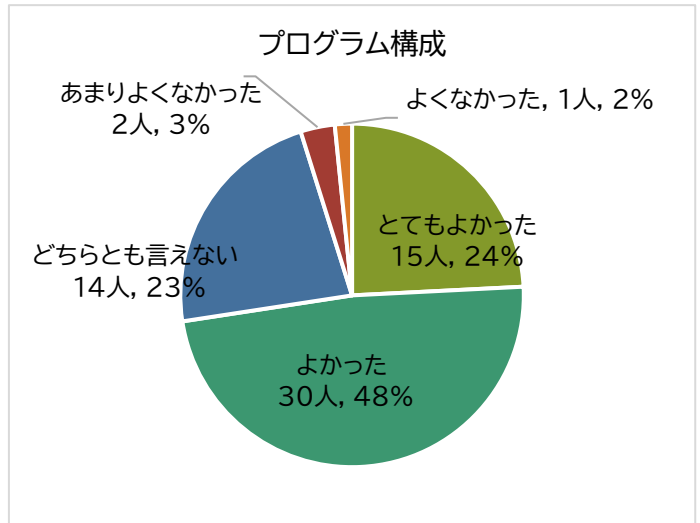
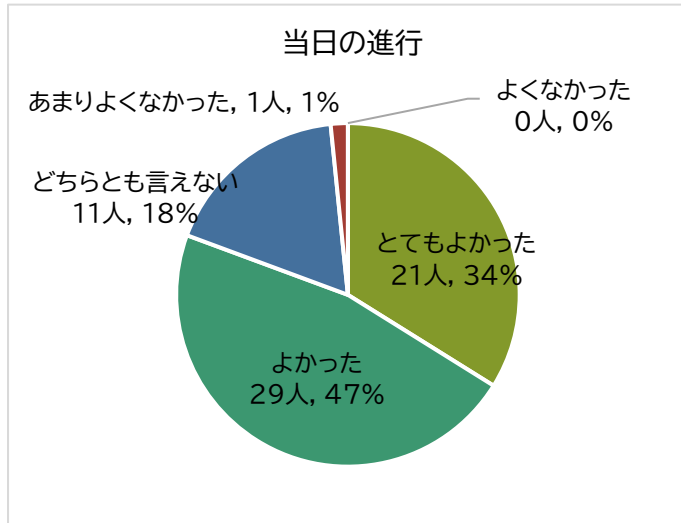


問5:「家族の想い」について考えるきっかけとなりましたか?気づきや気持ちの変化などありましたら教えてください。

- ・ 亡くした家族の想いが良く伝わってきた。
- ・ 瀬古さんの毎日のマッサージ、いいな。息子さんもお父さんも救われたのかなと。
- ・ 変わらない
- ・ いろいろあってうまくいかないけれど、いろいろあるので、いろいろな経験談が聞きたい。そして、自身が行っている緩和ケアの今後の対応に生かしたい。
- ・ 本人にどう言葉をかけたらよいか、元々の関係やがんのステージなどケースバイケースでお手本はないのだろうと難しさを感じた。
- ・ 家族への想い、家族の想い、とても強く考える機会になりました。大切なパートナーへ、子供へ、しっかり気持ちを伝えることが大切なんだと思いました。お互いに遠慮して、気兼ねして、言わないでしまう気持ち、言えない気持ちを伝える事が出来るように、関わられたらいいなあと思いました。近い存在だからこそ言えないと思う気持ちを、受け止めたと思いました
- ・ 清水先生の話聞いて、丁寧に向き合う事の大切さを改めて実感しました
- ・ 家族の想いや気持ちを伝え合うことの大切さを改めて感じました。
- ・ 自分も35歳(30年前)で罹患したのですが今と違い親には心配させたくないと後で連絡しました。今ならオープンに話すと思います。
- ・ 家族が時々、強い、きつい言葉を投げかけることが何故か少し分かったような気がしました。
- ・ 肺がんで父を亡くしているのも、その時の気持ちや後悔が襲ってきた場面もありましたが、家族って後悔と自責ばかりなので、目を向けていただく場に参加出来、感謝しています。
- ・ 家族の辛さを、改めて、感じました。
- ・ 愛着の事を理解できました。
- ・ AYA 世代は自分の親、パートナー、子どもが若い世代です。自分の子どもへの伝え方など、研究されていますが、親の立場を研究したものは少ないかと思います。瀬古さんのお話から AYA 世代の親がどのようにがんとともに生きているかを知るきっかけになりました。
- ・ 家族の想いについての講演会はあまり聞いたことがなく、今日は本当にありがとうございました。自分もそうだったと清水先生の講演を聞いて共感していました。
- ・ 感動して聞いていました。家族の気持ちにもっと寄り添う事も大切だと思います。

- ・ 自分が患者経験者なのでついその立場の考えになってしまいがちです、他の病気を抱える家族とかかわることのある今、もう少しお話をお聴きしてみたいと思いました。
- ・ はい、貴重な機会となりました。いまはがん患者さんの看病で毎日気がはっているようなご家族の場合、お亡くなりになったあとの喪失感とどう向き合っていくとよいのか、轟さん、清水先生、瀬古さまのお話からそのヒントをいただきました。
- ・ こどもを亡くされたご家族にとって、そのご家族に合わせてその後の心理過程、サポートが必要だと感じました。
- ・ オリンピックの話が多すぎて家族の想いまでは伝わってきませんでした
- ・ 一人の患者さんを取りまくご家族にも、ご家族それぞれ、また状況が変わるなかで一人ひとり想いが変化してゆくことを短い時間からも感じることができました。
- ・ 清水先生の残された家族の心の動きの解説を伺い、家族を失ったときに感じた自身の心の動きを頭で整理でき、有難かった。
- ・ がん患者の家族は第二の患者、そこに焦点を向けたのが良かったです、ありがとうございました。
- ・ 清水先生のお話は大変有難く拝聴しました。家族を亡くして2年が経ちますが、渦中にある時にこういった知見を持つことができたならもっと心の持ちようが変わったのではないかと考え、家族を失う前にアプローチできないか模索しています。がん以外の病気であっても、病院から案内されることができないか考えています。こうしたイベントを通じて知ることはとても有意義だと感じます。
- ・ 患者としての想いや会合は最近やっと知られる機会が多くなりましたが、患者本人を取り巻く家族の想いがお話される機会はまだまだ少ないと思います。清水先生のおっしゃっていた「家族は第2の患者」という言葉が心に響きました
- ・ 患者本人の願いと家族の思いが一致しないことは悲しいことだと思います。まずは腹を割って話し合うことが重要なのですね。そのきっかけ作りに、清水先生のような先生を頼れるのは本当に心強いと思いました。
- ・ 家族は第2の患者である、正しくそうだなと感じました。
- ・ 本当に相手(闘病中の家族)が望んでいることは何なのか言葉にしていく必要があるようだ。
- ・ 瀬古さんの清々しさ、潔さは9年の歳月からなのでしょうか？気持ちの切り替えの巧さを羨ましく思いました。強いです。私は泣いてばかりです。
- ・ そして清水先生の診察を受けたいと強く思いました。
- ・ 今回『家族の想い』を取り上げてくださったことに心から感謝します。すべてのことばが私の心の中に染み渡り、これまでの日々をなぞって下さいました。
- ・ 家族で医療者も難しい
- ・ 清水先生のお話、感銘受けながら聞いてました。なかなか家族だから本音が言えない。看護師として橋渡しの役割は大切だなと改めて思いました。

- ・ 清水先生のお話で、いろんな家族の想いを知り、振り返るきっかけになりました。
- ・ 信頼できることがそれぞれの想いを打ち明けられることができると思いました。
- ・ 瀬古さんは息子さんとのスキンシップを努力してされたい様子をお聞きしてアスリートとしての大きな経験があたりだからだと思いました。悔いのない看取りはないですが少なく出来ることを知りました。・ AYA 世代の我が子が別の病気なので、同じように苦しんでいる御家族がいらっしゃるのだと思いました。家族同士で繋がれたら心強いかもしれません。
- ・ 私は、夫を、がんで亡くした遺族ですので、いろいろ感じるが多かったです。遺族の方たちに共感する部分も有れば、考えが違う面も有ると思いました。
- ・ ただ、告知を受けた時点の衝撃や、家族が旅立った時の悲しみは、病状や環境により差があるかと思いますが共通していると思います。
- ・ 家族のメンタルも支えてくださる体制がまだまだ整っていないのではないかと感じました。
- ・ 予期悲嘆のことや自責の念のこと等、自身の体験や気持ちを振り返りながら、そういうことだったのかと理解でき腑に落ちました。当時はとても辛かったです。不自然なこと(自分だけに起こること)ではなかったり、それなりに意味のあるプロセスでもあったのかなと思うことができました。
- ・ 家族の思い、一言でいうのは難しいが、家族の応援があったので私は生きていると思っています。
- ・ 「家族は第二の患者さん」の言葉が家族の絆、愛のありがたみを強く感じました。
- ・ 第二患者と言われる患者家族を支えるための知識として、とても大切なことを清水先生から拝聴することができて良かったと思います。ただ、このようなお話しは、遺族となって聴く人が多いように感じています。特に患者の思いとしては、絶対に治る・治すという思いで戦っていることを考えたり、普段通りに接したいと思っても、知人や友人をがんでお別れしているとなかなか難しくですね・・・
- ・ 家族としては、本人には言えないつらさを抱えます。患者とともに家族のケアを行うことが、家族が本人に行うケアをよいものにできると考えます。
- ・ 家族は第二の患者と言われてるのがよくわかります。様々な葛藤などもあると思います。コミュニケーションが大切ですが、相手を気遣って言えないことや言葉を選ぶこともあると思います。がんになる前からの信頼関係を充分築いていたら違うんでしょうかねえ？
- ・ 今回は息子を失った父親の立場のお話で、亡くなったときに泣いてからはもう泣いていない、奥さんはしょっちゅう泣いているとおっしゃっていたのが印象的でした。世代的に、そして世界的アスリートで精神力や気持ちの切り替えが一般の人より強かったり早かったりされているからかもしれませんが、長年想い出では涙する方にとってはちょっと聞き辛いお話だったのではと感じました。でも瀬古さんの涙が出ないのも事実ですものね。ですからやはり個別性であることを大前提として認識しておかなければと思いました。家族は第二の患者という認識、知れば知るほど本当にそうだと思います。そしてその立場であることが公にできない、しない人も多くいてそれがあつた種の孤立を生んで人に話すのを避ける人が多いのかもしれない。

**問6: イベントの運営全般についてお聞かせください。**


**問7: 瀬古さんや清水先生のお話、イベントについての感想を教えてください。**

- ・ オリンピックの話を聴きたくて、わざわざこの時間を取ったのではない。
- ・ よかった
- ・ 瀬古さんはさすがに面白い話をしてくれた。
- ・ 清水先生のお話が本当に清水のように心に静かにしみわたってきました。お忙しいなか、本当にありがとうございました。
- ・ 気付きのある話があまりなかった。
- ・ 不思議なものですね、昴さんのお話は 5 分間だけなのに、瀬古さんの苦しさ・無念さが伝わってきました。
- ・ 瀬古さんのお話が、特別専門的でなく、普通な感じでよかった もちろん清水先生の話は最高
- ・ 瀬古さんの家族としてのお話が聞きたかったが、オリンピックやマラソンの話がほとんどで残念でした。
- ・ 瀬古さんのオリンピックの話が長すぎて、講演の趣旨がわからなくなりそうでした。清水先生のお話は経験されたことを紹介していただき、わかりやすく、心に残るものでした。対談の時間がもっと長かったらいいなと思いました
- ・ 瀬古さんの話はオリンピックの話より息子さんとの闘病の中での話を聞きたかったので、私的には残念でした。清水先生の話は実際の例をあげてくださり、分かりやすかったです。ただ、画面上の文字がぼやけていて読めなかったのがもったいなかったかと思いました。
- ・ 他でも聞けるオリンピックの話よりも息子さんの話がもっともっと聞きたかったです。
- ・ お二人ともとても理解しやすい内容だったと思います。ただ、画面のピントがずれていたのが残念でした。
- ・ がん患者さん、その方を支えるご家族の傾聴ボランティアに参加しています。清水先生のお話は今後の活動においても、すごくためになるお話でした。ありがとうございます。
- ・ がんに関しては辛く話しをすることが普通かと思っていましたが、笑顔で話すことの方がよいかとふと気づいたような気がします。やはり前向きな話し、笑顔がよいのかなあ。
- ・ 清水先生の患者さんのご家族と仲良くしていただいて、先生のイベント等には参加させていただいています。今日のお話も穏やかな語り口ではあるのに、ハツとしたといえますか、
- ・ 大切な気づきをいただきました。ありがとうございます。瀬古さんは、オリンピックとは別の、ガン患者のご家族としてのお話を聞ける貴重な場と期待していましたが、オリンピックの話で残り 5 分となり残念でした。そんな話が聞き

たかったわけではないと伝えるすべもなかったのが苦痛でした。主催者の方のせいではありませんが、楽しみにしていたので、一言書かせていただきました。

- ・ 瀬古さん:オリンピックのお話しが長すぎた。清水先生:難しいテーマののに取り組んでいただけた。音量が小さかった?
- ・ 瀬古選手のお話が体験されて来られた事でしたので、とっても私は理解しやすかったです。本当にこの様な機会を頂きありがとうございます。清水先生の優しいご説明も理解出来ましたし、勇気を頂きました。ありがとうございます。
- ・ 瀬古さん、清水先生の具体的エピソードから、家族だから思いやること、力になりたいと思うことはがん患者と家族は双方で思っていることで、すれ違うこともあれば、何かのきっかけでわかりあうこともあることがよくわかりました。泣きながら聞いていたのにユーモア溢れるお話しで泣き笑いしていました。
- ・ 携帯でなく PC で視聴していましたが、清水先生のスライドがぼやけて見にくかったのが、残念でした。
- ・ 轟さんの安定の進行、瀬古さんのお話の面白さ、清水先生のお話良かったです。瀬古さんの押しに対するお二人の反応も面白かったです。有難うございました。
- ・ もう少し昴さんとのかわりの事をお聴かせいただきたく思いました。清水先生のお話はもちろん、お声、話方、癒されました。ありがとうございました。
- ・ 家族はもちろんのこと、友人やパートナーなど、がん患者さんの周りにいる人々の視点でお話をお聞きすることがあまり無かったため、とても興味深い内容でした。
- ・ 瀬古さんと息子さんの家族のつながりを知ることができ、家族の関係性により死の乗り越えかたや死別後の家族の生き方が異なることを感じました。清水先生が紹介して下さった様々な家族の気持ちについて、医療者である自己の看護に役立ち、家族に寄り添っていきたいと思います。
- ・ 清水先生のお話を、もっと長く聞きたかったです
- ・ 欲を言えば、瀬古さんのご家族のお話もっとお聞きしたかったです。でも短い時間ながらも伝わってくるものがたくさんありましたし、その部分を限られた時間で的確に掘り上げて共有する時間を上手く作って下さっていた清水先生、轟さんの進行が素晴らしかったなと思いました。イベントでお話お聴きできてよかったです。ありがとうございました。
- ・ 瀬古さんのお話が多くがオリンピックに割かれてしまったのが残念でした。すばるさんにご家族のお話をもう少し詳しく伺いたかったです。
- ・ 今回の取り組みは素晴らしいものだと思います。瀬古さんの功績や息子さんへの想いが伝わりました。清水先生の患者さん方、その家族のそれぞれの言葉は、胸に迫る思いがありました。がん患者とその家族のサポート情報、リンクす

る情報が少ないと思います。本人と、家族としての取り組み方、心の落ち着かせ方などの情報があれば、闘病中、その後が変わってくると思いました。瀬古さん、清水先生、関係者の皆様ありがとうございました。今後のご活躍を応援いたします。

- ・ 清水先生については、上記のとおりです。瀬古さんの話は、司会の方を別に立てて、仕切っていくことで本題に軌道修正できたのではないかと考えます。
- ・ 瀬古さんの明るいお人柄はとてもよかったと思います。バランスとしてはもう少しがん患者家族としてのお話をたくさんお聞きしたかったです。清水先生のお話は本当に感慨深く視聴させて頂きました。本当に時間が足りないくらいでもっとお時間頂いて色々とお聞きしたかったです。しかし、短いながらも丁寧にまとめてお話になられており、内容のとても濃いお話で参加させて頂いて本当によかったと思います。清水先生がお話なさっている間ずっと泣きっぱなしで拝聴させて頂きました。次回は先生のお話をもっと時間をかけてお聞きしたいです。清水先生の次回の講演を楽しみにしております。先生がほかに講演なさるイベントの予定がありましたら、テーマが違ってもかまいませんのでお知らせ頂ければ幸いです(私は現在がん有明の遺族外来でお世話になっております。病院ではなかなかおみかけすることができませんが、講演等でおみかけすることができれば幸せに存じます)
- ・ アスリートの話も伝えたかったのですが、息子さんの闘病時のエピソードや親としての受け止め方、亡くなられたあとの心情などをもっとお聞きしたかった。20代後半30代の患者では、自分の子どもへの思いと親への思いなどどちらの立場にもなる世代の支援など、清水先生の多くの経験からお話をお聞きしたかったです。
- ・ 私は AYA 世代ではありませんが、大好きなお二人のお話がうかがえるので迷わず申し込みました。がんになってから清水先生のご著書に出会い、本当に励まされてきました。今日も患者とその家族についてのお話を伺うことができ嬉しかったです。正解はないのだから私も私なりの方法で家族と心を通わせ感謝しながら治療していけばいいんだと思うことができました。瀬古さんの温かく飾らないお人柄と息子さんへの思い、奥様の息子さんへの思い等々、貴重な体験談をお聞かせいただき本当に感激しました。昴さんからの金メダル最高ですね！轟さんの司会も素晴らしかったです。ありがとうございました。・ 瀬古さんは明るく振る舞われていましたが、ご子息を亡くされた悲しい気持ちを想像できました。清水先生のお話しされた、家族のつながりは、理解できました。
- ・ 瀬古さんは、昴君に対しやりきったという気持ちを述べられ羨ましい。9年間の歳月も羨ましい。清水先生の話には感動、泣きました。1つ1つの事例がうなづける事ばかりでした。娘が入院しており、急変もあり得る状況ですが現在コロナで全く面会が出来ません。辛いです。会いたいです。心残りを沢山抱えそうで悔しいです。
- ・ コロナで全く面会が出来ない中、娘はいつ急変してもおかしくない厳しい状況です。会いたいです。顔を見たいです。この気持ちとどう折り合いをつければ良いのか教えてほしい。
- ・ 瀬古さんはオリンピックについての話が長く、なかなか本題に入らなかったのも、一度退出してしまいました。会場にいたらお話を聞けたと思いますが、テーマと関係ない話をされると zoom では集中して聞くことは難しいです。清水先生のお話はとても分かりやすく良かったです。がん患者本人が治療の結果を受け止めるのだからその意向を尊重

してあげてほしいというところがとても納得がきました。家族は1日でも長く生きてほしいと思いますし、家族ががんによって亡くなってからもっと治療を受けていたらまだ生きていたのではないかと残された家族は自分を責めてしまいがちだと思うので。

- ・ 参加して大変良かったと思っています。もっともっと AYA 世代という言葉が広がって行くことを祈ります。
- ・ 瀬古さんの動画がなぜか画面が4分の1しかみえなかったが、むすこさんへの思いを知ることができてよかった。
- ・ 瀬古さんのはマラソン選手として尊敬してますし、大好きですが、息子さんとのお話をもっと聞きたかったです(笑)。
- ・ 瀬古さんの今回のオリンピックの批評話に途中でギブアップしました。終了6分前に戻ってきて、息子さんのお話は今から？と驚きました。5分の話をつォローする司会力に尊敬。清水先生のお話は家族それぞれの物語が聞けて、家族の負担をイメージしやすくてためになりました。
- ・ 瀬古さんの息子さんとの係わりや息子さんのお話を多くして欲しかった。
- ・ 瀬古さんには、もう少し闘病の事が伺えればとも思いました。清水先生のお優しいお話しがりは何時も安心を頂けますね。言葉にはお人柄が出ると信じています
- ・ オリンピックの話を知った訳では無いのでとても残念でした。清水先生のお話はとてもあたたかく、こういう見方で接してもらえたら心が安らぐと思いました。家族は第2の患者だというお言葉、身に染みて実感しています。
- ・ 瀬古さんのことは、世代的に存じており、スポーツマンらしい話し方だと思いました。ご子息のすばるさんのお人柄に感銘を受けました。お父様に伝えた素敵な言葉や、すばるさんの手作りのメダルを御守りにしているというエピソードが印象的でした。オリンピック、タイムリーですが、沢山お話しされていたのも驚きました。清水先生のお話では、パートナーを亡くされた奥様の事例が、自分に重なり深く胸に刺さりました。同じような年齢で夫を亡くしました。夫は、治療中も趣味のゴルフを楽しみにしており、新しいゴルフウェアを購入したりしていましたが、がんが進行し新しいウェアに袖を通すことは出来なかったです。私自身も、振り返れば人前で泣くこともなく忙しい日々を過ごして、今、大分落ち着いてきたところです。悲しみは、無くなることは無いので、全く別の次元の楽しいことと共に、日々を過ごすこと。
- ・ 真から信頼できて、辛い事を何でも話せる人を持つ事も大切だと思いました。
- ・ 昴さんのお話をもう少し伺いたかったです。親・家族も専門医や臨床心理士さんのフォローが必要だと自身が罹患した20年前よりずっと考えていました。本人も家族も、感情に蓋をしなくても良い状況を作るのが大切だと感じました。
- ・ 瀬古さんのお話の後半部分、清水先生のお話(お互いの思いを話あった方が良い等)参考になりました。ただ、瀬古さんのお話の大半が「オリンピック」のお話であり、期待していた講演内容(闘病に関するお話)とは異なっていたのが残念でした。事前にその内容と知っていれば気にならなかったかも知れません。



- ・ 瀬古さんのお話を伺い、瀬古さんのポジティブさ、明るさ、息子さんにできることを精一杯やり切ってご自身の気持ちに正直に生きていらっしゃるところが素晴らしいなと思いました。清水先生のお話は、「家族」というテーマで実際の患者さんやご家族の様子と専門家の視点が自然な感じで調和されていてわかりやすく、先生の温かさとともにとてもずっと心に入るストーリーでした。貴重なイベントに参加させていただきありがとうございました。
- ・ 瀬古さん、当日のテーマを思えば、オリンピックの話はもう少しまとめて、もっと息子さんとか家族の話を書きたかったです。
- ・ 「悲しみ泣く」は絶望感から救われる最大の武器と認識しました。でも泣けない環境の人は？とも考えました。だから助けてもらえる繋がりが大事とも。叱咤激励で支えられた瀬古さんの奥さんの心境は、やりきられた感の瀬古さんとまた心境が違われるのではと考えたりしながら拝聴しました。
- ・ 清水先生のお話をもう少し聴きたかったと思いますもありますが、瀬古さんの思いも十分と伝わってきました。ありがとうございました。
- ・ 瀬古さんのお話しは最初テーマと違い今まで聞いたことのないオリンピックとかのお話しが聞いてよかった反面、テーマはいつになったら言われるのかハラハラしてました(笑)が結果的には色々な心の気持ちが聞いて良かったです。瀬古さんのお人柄を見ることができてありがとうございました。清水先生のお話しは毎回とても心に沁みます。今回も本当に聞いて良かったです。わかりやすく納得できて先生の患者さんは幸せだと思います。ありがとうございました。
- ・ 瀬古さん、昴さんの言葉がずっと一緒に支えてくれているんですね。清水先生、いつも悲しみを抱えた人への慈しみを感じます。人は当事者にならなければあり得る現実を自分のこととして受け止めにくいんですね。知ることの大切さを改めて思います。当事者が発言していくことの意味を強く思います。